



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 324

Dezember 2017

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館 19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

2018年関西地区 日独協会合同新年会

2018年の関西地区日独協会の合同新年会を、1月13日(土)に開催いたします。

関西地区の大阪、神戸、奈良、和歌山、大津、京都の日独協会は、平素より互いに連携をして、日独親善交流に努めています。合同新年会は、各日独協会の会員が新春に集まり新年を祝賀し、相互の懇親を深めるために毎年年頭に開かれているものです。今回も好評の餅つきを行います。

会員の皆様にはこの合同新年会に是非ともご参加いただき、新しき年のドイツとの交流についてご歓談していただきたく、ご案内いたします。

日 時: 2018年1月13日(土) 18:00~20:00

場 所: アサヒスーパードライ梅田
ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1 (TEL06-6311-2829)
JR大阪駅徒歩10分、御堂筋線梅田駅徒歩10分
地下鉄谷町線東梅田駅、JR東西線北新地駅徒歩5分

会 費: 当日 各自実費清算。
餅代として500円をいただく予定です。

申 込: 参加ご希望の方は、1月9日(火)までに、事務室にご連絡下さい。
お早めにお申し込み下さい。(事務室閉室中は TEL/FAX、メールにて)
Tel: 078-230-8150 E-mail : info@jdg-kobe.org

会員によるコンサート、出演者募集！

神戸日独協会では、会員によるコンサートを企画中です。

日 時： 2018年2月25日(日)午後3時頃

場 所： 音楽ホール&ギャラリー 里夢 SATOM

(神戸市灘区曾和町1-4-2-B1)(最寄り駅: 阪急六甲駅)

入場料： 800～1000円(飲物付)

プロ・アマチュアを問いません。「昔ブラスバンドに入っていた!」、「バイオリンを習っていた!」、「歌が好き!」usw.・・・ 楽器の種類も問いません。一緒に演奏して下さる方を募集します。お問い合わせも大歓迎です!

お問合せ・申込先:sung.de.mail@gmail.com (成(Sung))

Wer möchte mit uns zusammenmusizieren?

Die JDG Kobe möchte ein Konzert veranstalten.

Datum : 25.02.2018 (So) gegen 15 Uhr

Ort : SATOM (Nada-ku Sowa-cho 1-4-2-B1, Nächste Station Hankyu Rokko)

Eintritt : 800 – 1000 Yen (mit Getränke)

Anmeldeschluss : 30.11.2017 (Do)

Spielen Sie ein Instrument oder singen Sie professionell oder laienhaft? Das ist egal!

Wer mit uns zusammenmusizieren möchte, melde sich einfach bei dieser Adresse! Auch Anfragen sind willkommen!

sung.de.mail@gmail.com

神戸日独協会 ドイツワインの会

シリーズ最終回/第8回

「ラベルデザイン今と昔～エチケットから解るドイツワインの情報」

Finalrunde/Nr.8 Weinetikett Design Heute und Einst

神戸日独協会では“日常生活の中でワインを楽しめるようになるきっかけづくり”をコンセプトに、ドイツとその食文化の理解を深める「ドイツワインの会」を開催してきました。第8回目はシリーズ最終回。テーマは「ラベルデザイン今と昔」です。ワインのラベル「エチケット」からどんなことが読み

取れるでしょうか？講師の松田氏(株式会社ドイツ商事社長)のお話を聞きながら、実際に見て・飲んで、学びましょう。「エチケット」を読み解いてワインをもっと楽しく！初めての方はドイツワインを知るきっかけに、今まで学んできた方はより理解を深めるために、どうぞご参加ください！

日時：2018年1月28日(日) 14:00-16:00

場所：神戸日独協会会議室

定員：24名(先着) ※定員を超えた場合はキャンセル待ち

費用：会員1,800円／一般2,000円

※締め切り日以後にキャンセルされた場合、後日料金を請求いたします。

ご了承ください(締め切り日の申込者数でワインを発注するため)。

申込：2018年1月24日(水曜日)まで

Tel: 078-230-8150 E-mail: info@jdg-kobe.org

初参加の方は、お申し込み時にお知らせください(テキスト準備のため)。

◆お願い◆

会員からのご紹介による一般の方のお申し込みは、会員1名につき2名までといたします。おかげさまで毎回大人気につき、会員のご予約が難しくなったためです。ご理解いただければ幸いです。

現在実行委員にて、「ドイツワインの会のまとめ」としてドイツワインの催しを企画中です。案内は協会ホームページおよび会報にて。乞うご期待ください！

第7回ドイツワインの会に参加して

会員 宮本 真理子

今回は「日本人醸造家に聞くドイツワインの全て」ということで、いつも講師をしてくださる「ローテ・ローゼ」の松田さんのお話ではなく、ドイツ・STRUB ワイナリー300年の伝統と技術を伝承されている日本人醸造家 浅野秀樹さんのお話でした。

まずは浅野さんの自己紹介から始まりましたが、とにかくすごい冒険譚もあり、ここで紹介するには紙面が足りませんので、ご興味のある方はぜひ浅野さんのホームページをご覧ください。

さて、ワインのお話ですが、スライドを見ながらいろいろとお話ししていただきました。

・1ヘクタールの畑を借りて1級畑「ヒッピング」のリースリングを100%使用して醸造していること。年間6,000～7,000リットルの収穫があるそうです。

・醸造家といってもほとんどブドウ畑で作業をしていること。

・人一倍の情熱と手間をかけ、ブドウは手摘みをしていること。etc

いつも5～6種類のワインの試飲がありますが、今回はリースリングの2種類のみでした。でも飲み比べがゆっくりできワインをじっくり味わう事が出来て、私はとっても良かったです。

浅野さんのワインのラベルは「HIDE'S WINE “639”」ですが、参加者のなかから、「639」の意

味はという質問には「答えられません。皆さんでいろいろ解釈してください。」との事。う～ん、謎が残りますねえ。

最後に浅野さんの夢は息子さんにノウハウを教えて、100年続くワイナリーを目指したいとの事。ちなみに営業部長の息子さんは可愛い小学生でした。

今回の内容はほとんど参加者からの質問でしたが、その一つ一つに丁寧に答えてくださり、あっという間の2時間でした。ありがとうございました。またぜひお話を聞きたいと思いました。

いつもお世話くださるスタッフの皆さん、ローテ・ローゼの松田さん、ありがとうございました。

ドイツ文化サロン

「女性が支える国際交流」

第14回 『海外での子供との生活』に参加して

会員 平山 梨絵

今回マルティーナ・ライリング＝ケーラー夫人にお話を伺いました。

私はまだ独身で子育ての経験もないので、お話の中で理解しづらい点もありましたが、たくましく子育てをやり遂げられたことに感心いたしました。

ケーラー夫人のお話の中で、カロリーナさんのお子さんの食べ物について興味深いお話をされていきました。

かつてケーラー夫人が生後6ヶ月であったカロリーナさんを連れてこられた東京での体験の中で、食べ物に対して、農薬が入っているかいないか、添加物が入っているかいないかなど注意して与えておられたということでしたが、それが母親として一番気にかかることなんだなと思いました。

私がケーラー夫人に1つ質問したことがあります。子供たちはご両親の海外赴任に連れて行かれた際に、いろいろな国々での影響を受けて、進路や職業を決められたのでしょうかとお聞きしました。

ケーラー夫人はそれに対して、海外生活の影響を受けて進路を決めたのではなく、本人たちがやりたいことを選びました、と言われました。

私はそう言われるのを聞いて、私も自分で決めてドイツに留学したことを思い出しました。自主性を重んじてくれた両親に感謝しております。

この度は、貴重な体験をお話ししていただき、本当にありがとうございました。

お知らせ

☆ 12月の「ドイツ文化サロン」はお休みさせていただきます。

次回の「文化サロン」については、会報次号にてご案内いたします。

ドイツ語談話室

第168回ドイツ語談話室

日 時： 2017年11月18日(土) 14-16時

場 所： 神戸日独協会会議室

テーマ： 時の過ぎ方

今回の司会は林典人氏が担当され、今年ドイツの元首相ヘルムート・コール氏の死去が報道されたとき、1991年のドイツ誌シュピーゲルに載った、ドイツ再統一へのコール氏の功績の記事を思い起こし、時間の経つ早さを感じたことを話された。次に参加者がそれぞれの時間の感じ方を話した。

—20歳ころまでは時間の過ぎるのが遅かったが、20台半ばからは時が早く過ぎるようになった。そして今は、時は待ってくれないことを強く感じるようになった。

—いろいろ多くの事が起こった日は、一日がとても短く早く過ぎ、過ぎ去った日々がとても昔に思える。他方、単調な日は一日が長く感じられ、過ぎ去った日々が近くに感じる。

—年を重ねるにつれて時間が早く過ぎるように感じる。また、退屈な事柄は時間の経つのが遅く、興味のある事柄は時間が早く経つものだ。

—子供の頃は時間を随分長く感じた。昼食を食べてもすぐ空腹になり、夕食までの時間がとても長かったのを思い出す。でも母親にとっては面倒を見る事が多く、あっという間に時間が過ぎていたのだと今思う。

—子供の頃、学校給食でいつも小さなパン一個くらいしかなく、何時も腹を空かせていた事を思い起こす。今は、一日は24時間しかないので、趣味の読書、音楽鑑賞、写真撮影に、有効に時間を使うよう心がけている。まさに時は金なりである。

—これまでの人生で多くの国に住み、引っ越しを20回以上やり、そのたびに引っ越し先の土地になじんで多くの友人も出来た。以前は一日の時間の内でいくつもの事がやれたが、時間の方が早く経って行くようになり、今は少しの事しかやれなくなった。

—時間というものは、実は私達自らがなくしているのではないだろうか。忙しがつてやるべき事柄を避けているあいだに、時間が無くなっているようだ。若い頃は多くの事を義務感でやって来たが、年を重ねて、何もしない時間も楽しんでいる。心から喜びを感じる事をしている時、時間は逃げ出さないし、有意義であり、全てうまく行く。

—年を取るにつれて時間が早く過ぎるように感じる。妻との50年の生活もとても早く過ぎたように感じる。一方で、心配事があるときは時間の経つのがとても長く感じる。年金生活に入ってから時間は時間の過ぎるのが早い。

—俳句が趣味で、句作をしている時は、時間がとても早く過ぎる。句作の時は心も平静な状態で気持ちが集中する。合田氏の死去に接して浮かんだ句は、「友去りて 讚美歌弾く日 ありて秋」

—年齢と共に時間が加速している様に感じる。今日のテーマである「時間の速さ」については、アルバート・アインシュタインの相対性理論を思い起こした。動く物体の時間に関する理論だそうで、

GPS での位置の計測にもこの理論による修正がされているとの話。

—これまで楽しい人生を過ごしたと思う。つまり、これまでの時間はとても早く過ぎた事でもある。50年前ハンブルクのジェットロに駐在していた時、若き日の合田氏と会っていた。その後アメリカ勤務を終えて帰国した後に、神戸で、このドイツ語談話室で、合田氏に再び会った日の事を懐かしく思い起こしている。

今後のドイツ語談話室の予定

第169回 2017年12月16日(土) 14-16時 テーマ:クリスマスと正月の食べ物

第170回 2018年 1月20日(土) 14-16時 テーマ:ドイツの新しい政府と政党連合

Deutsche Gesprächsrunde Protokoll der 168. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 18. November 2017, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die Geschwindigkeit der Zeit im Alter

Dieses Mal hatte Herr Norihito Hayashi die Gesprächsleitung und erzählte, dass er sich bei der Nachricht über das Ableben von Ex-Kanzler Helmut Kohl an einen Artikel in der Zeitschrift, Spiegel aus dem Jahr 1991 erinnerte. In dem Artikel ging es um Helmut Kohls Beitrag zur Wiedervereinigung Deutschlands. Seit damals scheint die Zeit so schnell verfliegen zu sein.

Zum Thema, wie sehr die Zeit verfliegt, kam es bei der Gesprächsrunde unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

- Bis zum 20. Lebensjahr fühlte eine Teilnehmerin, dass die Zeit langsam dahinfließ. Später, so ab Mitte 20, fühlte sie aber, dass die Zeit schneller vorüberging. Und jetzt hat sie den Eindruck, dass die Zeit nicht auf sie warte.

- Für einen Teilnehmer fließt ein Tag sehr schnell, wenn er viel zu tun hat. Die vergangenen Tage scheinen ihm dann auch sehr entfernt zu sein. Andererseits vergeht für ihn ein Tag sehr langsam wenn der Tag langweilig ist. Die vergangenen Tage scheinen dann auch näher.

- Eine andere Teilnehmerin fühlt auch, dass je älter man wird, desto schneller fließt die Zeit, doch langweilige Angelegenheiten dauern auch für sie sehr lange, bei interessanten Sachen verfliegt die Zeit.

- Ein Teilnehmer fühlte auch als Kind, dass die Tage sehr lang seien. Nach dem Mittagessen hatte er bald Hunger und die Zeit bis zum Abendessen schien ihm sehr lang. Er denkt aber, dass diese Zeit für seine Mutter wohl furchtbar kurz war, weil sie stets sehr viel zu tun hatte.

- Ein Teilnehmer erinnert sich, dass er als Kind bei der Schulausspeisung nur ein kleines Brötchen bekam und deshalb immer Hunger hatte. Jetzt ist er bei vollem Bewusstsein, dass ein Tag nur 24 Stunden hat, und er verteilt seine Zeit möglichst effizient für seine Hobbys, Lesen, Musikhören und Fotografieren. - „Zeit ist Geld“.
- Eine Teilnehmerin hatte in vielen Ländern gewohnt und ist mehr als 20 Mal umgezogen. An jeden Ort hatte sie sich gewöhnt und hatte viele Freunde. Früher konnte sie innerhalb eines Tages viele Sachen schaffen, aber jetzt fließt die Zeit schneller und sie schafft nicht mehr so viel.
- Eine Teilnehmerin fragte sich, ob es nicht eher so ist, dass wir der Zeit davonlaufen und somit auch vor uns selbst. Wenn wir uns mit unseren Aufgaben nicht richtig beschäftigen wollen, beschäftigen wir uns eilig mit etwas Anderem, und irgendwann ist die Zeit vorbei. Als Kind musste sie vieles tun, es gab viele Pflichten. Jetzt aber im Alter findet sie es auch schön, nichts zu tun. Wenn sie wirklich Freude an etwas hat, dann läuft die Zeit nicht davon, dann hat die Zeit einen Sinn.
- Noch ein weiterer Teilnehmer betonte, dass mit zunehmendem Alter die Zeit immer schneller fließt. Schon 50 Jahre lebt er mit seiner Frau, und die Zeit ging sehr schnell vorbei. Beim Rentnerleben fließt die Zeit auch sehr schnell. Andererseits vergeht die Zeit nur langsam, wenn man vor etwas Angst hat.
- Als eine ihrer Freizeitaktivitäten dichtet eine Teilnehmerin Haikus. Dabei vergeht die Zeit sehr schnell. Das Dichten gibt ein Gefühl der Ruhe, man ist konzentriert. Als sie die Todesnachricht von Herrn Goda bekam, hat sie ein Haiku verfasst. „Der Freund verstorben, ich spiele ein Kirchenlied, des Herbsttags Trauer.“
- Ein Teilnehmer, für den sich mit den Jahren auch die Zeit beschleunigt erinnert das heutige Thema an Albert Einsteins Relativitätstheorie und die Frage der Geschwindigkeit zwischen sich bewegenden Objekten. Darauf basiert ja auch die Vermessung von Positionen mit GPS...
- Ein Teilnehmer berichtet, dass er bislang ein fröhliches Leben verbrachte. D.h., ihm ist auch die Zeit schnell verflogen. Vor 50 Jahren, als junger Mann ist er Herrn Goda in Hamburg bei JETRO zum ersten Mal begegnet. Nach seiner Arbeit in den USA ist er nach Kobe zurückgekehrt, traf Herrn Goda in Kobe wieder, bei unserer Gesprächsrunde! Das Wiedertreffen ist ihm eine liebe Erinnerung, auf die er jetzt gern zurücksieht.

Nächste Treffen

Samstag 16. Dezember 2017, 14 bis 16 Uhr

Thema: Essen an Weihnachten und Neujahr

Samstag 20. Januar 2018, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die neue deutsche Koalitionsregierung

リレーエッセイ 「ドイツ語学習上達法」

第5回 ドイツ語学習遍歴

会長 柘田 義一

夏にバトンを受けましたが、シュレースヴィヒ・ホルシュタイン独日協会との「交流協定」や講演会の準備などで多忙であったため、次走者をお願いをしてきました。会員の方々のドイツ語学習の一助になればと思い、ドイツ語の学習遍歴を、かなり特異ですが、書かせていただきます。まずは「修業時代」から。

私のドイツ語学習は、獨協高校への入学から始まります。獨協学園は、1881(明治6)年に西周、桂太郎、加藤弘之らによって設立された獨逸學協會 Verein für deutsche Wissenschaften によって、1883年に併設された獨逸學協會學校(初代校長西周)を源にしています。かつては「英語の正則、ドイツ語の獨協、フランス語の暁星」と言われ、ドイツ語学習のメッカとして、特に全国から医学を志す者が多く入学し、ドイツと強い関係を持ち歴史を刻んできました(獨協大学は創立80周年を記念して建学)。入学時の校長はカント哲学者であり京都大学名誉教授、第一高等学校校長、文部大臣などを経歴された卒業生の天野貞祐先生。天野先生の名声のためか、当時は全国から生徒が集まり、大学教授であった著名な先生も多く教鞭をとっていました。当時の獨協学園にはドイツ語を中学から専修するクラスと高校から専修するクラスが各1クラスありました。

3年間で大学受験に足る実力をつけなくてはならないので、ドイツ語の授業は毎日(1~2時間)。ドイツ語の専任教員は4名、いずれも新進気鋭の先生方で数年後にはみな他大学へと移られました。その中の一人が現在栃木日独協会会長の橋本孝先生(宇都宮大学名誉教授)です。そしてドイツ人の酒井アルマ先生。

英語とは異なりドイツ語の高校用教科書はなく、大学生の使用する教科書を使用しました。何よりも不便だったのは辞書でした。当時独和辞典の代名詞となっていた「木村・相良」をもっぱら用いていましたが、高校生には読めない訳語の漢字、分からない意味にしばしば出会い、時には漢和辞典や国語辞典を引かなければなりませんでした。「現代独和辞典」(三修社)が発刊され、学習が大分楽になりました。

入学と同時に、高田馬場にあった「高田外国語学校」に通い、週二回ドイツ語文法の授業を受け、夏までの3ヶ月で初級文法を修了しました。指導を受けたのは東京外国語大学教授の藤田五郎先生。これによりドイツ語の言語構造のアウトラインをいち早く理解でき、文法の有機的な関係の理解に大変役立ちました。言語にはそれぞれの言語構造があり、言語によっては文法を通じてその構造の輪郭をいち早く身に付けると学習が楽になる言語があり、まさにドイツ語がその代表です。高田外語へは高校時代通い続け、藤田先生と同じく東京外語大の奈良文夫先生、両先生(後の大学・大学院での指導教官)に文学、人文科学、自然科学など多分野の種々の読本の指導を受け、3年間読解力を徹底的に鍛えていただきました。ドイツ語文の理解について、すぐに辞書を引くのではなく、まずは文構造を見極め、動詞から文意を理解すること。辞書を引くのではなく読むこと、文例を通してその語を理解すること、検索した語の前後の語彙にも目を通すこと等々辞書の使用法について、これを徹底的に教えていただきました。

また入学と同時にゲーテインスティテュートの分校であった大森のドイツ学園(Deutsche Schule)へも通い、1年間で Grundstufe を、翌年からは本校で Mittelstufe を2年かけて修了しました。それぞれの試験に合格した時に写真集等多くの賞品をいただいたのを覚えています。ゲーテではネイティブの先生と共に当時中央大学教授の小塩節先生の指導を受けました。小塩先生の授業中にしばしば歌われた美声を懐かしく思い出します。ゲーテでの教科書は Schulz・Griesbach。今の Berliner Platz 等のようにEUでの言語標準に準拠したものではなく、隔世の感を禁じ得ません。

夏休みには学習院大学などで行われていた「日独協会主催夏季講座」に毎年通いました。これはいろいろな大学の先生方が担当され、文法、読解など多彩なクラスがありました。私が神戸に着任した頃は同様の夏季講座を阪神ドイツ文学会主催で相愛女子大学などで開催していましたが、30年前頃に行われなくなりました。この夏季講座で受けた一橋大学教授の橋本郁雄先生の授業、読解の際に整然と文法の説明をされ、規則としてではない文法の有機性を理解できる教授法に魅了されました。この体験が後にドイツ語文法学者をみざす大きな動機となりました。

ドイツ語の学習遍歴を長々と披瀝しましたが、最も印象深いのは3年生の時に指導を受けた当時学習院院長の桜井和市先生の授業です。ドイツ語履修者の中から数名選抜されたクラスで週一回2時間連続の授業。教科書は使用せずに、文部省が作成した前年度のドイツ語入試問題集を使用され、特に授業の最後に長文読解問題の Diktat。それを次週授業で読解。ここまでは普通ですが、特に厳しかったのは、一切の持ち込み(訳文、単語帳など)が禁じられ、完璧な予習をしての出席が求められました。文句を言うにも相手が威厳に満ちた大先生、毎週が戦々恐々でした。読解では常に論理性が求められました。しばしば黒板に大きな円を書かれて、「核心に向かって論理的に考えなくてはいけないのに、君達は外へ外へと外れて行く」と、円外へ大きな矢印を書かれていました。当時は「何を、この爺さん」という思いでしたが、後年ドイツ語を教える立場になって、ドイツ語の持つ論理性、ドイツ語を通じての論理的な考え方の基礎を徹底的に叩き込んでくださったことに感謝をしています(私の授業が厳しいとの声を時に耳にしますが、その原点はここにあるのでしょうか)。

高校時代3年間はドイツ語に没頭していましたが、同時にラグビーにも明け暮れていましたので、毎日グラウンドで走り回り、校外でドイツ語を学び、家に帰っては食べて寝るだけ。そこで千円札大のカードの表裏にドイツ語の例文等書き通学時に必死に覚えました。暗記力の養成になったのか、ドイツ語の教科書の1頁も二三回読めば誦んじることができるようになりました。単語カードを作成している方もいますが、特に動詞と前置詞は例文あるいは句で理解しなければ使うことができません。辞書を引いても語義だけで、例文にも目を通す人が少ないのは残念なことです。例文を理解するために、すでに Duden の Stilwörterbuch(文体辞典)を愛用していました。

文法を集中的に3ヶ月で修了したため、ドイツ文法の大枠が理解でき、その後の学習が楽に、面白くなりました。文法の教科書を繰り返し繰り返し頁をめくり、また書き込みや添付をしたりでぼろぼろで倍の厚さになり、今でも座右にしています。文法の教科書と徹底的に付き合うことが大事です。文法を単なる規則としてはなく、有機的なつながりとして理解できるようになります。

高校時代はドイツ語の学習に励むとともに、「ドイツ」に積極的に触れるように努力していました。当時はドイツ映画も時折上映され、ウィーン少年合唱団のものなどを覚えています。現在は情報

過多の時代なので、ドイツを知る機会も多くうらやましい限りですが、その反面 …。

高校時代に今にしては望むべくも出来ない先生方にドイツ語の基礎を徹底的に教えていただいたことをありがたく思っています。お蔭様で卒業式ではドイツ大使(当時は入学式と卒業式にご臨席)から表彰を受ける栄誉に浴することも出来ました。

大学入学後のドイツ語修業については、次回に続く。

シリーズ 「ドイツ、わが愛」

第8回

会員 下山 和行

私とドイツとの出会いはクラシック音楽にあります。子供の頃からクラシック音楽に興味があり毎日聴いていました。その中でもドイツ音楽であるモーツァルトやベートーベン、ブラームスをよく聴いていました。子供の頃はただ聴いているだけでしたが、高校生になると歴史を学習するようになり、当時モーツァルトやベートーベンが生きていた時代のヨーロッパ(所謂時代背景)について考えるようになり、ハプスブルク家に興味を持ちこの貴族が好きになっていったのです。

ここまでの文章を読んで、『モーツァルトはドイツ人だったかなあ？オーストリア人じゃなかったかなあ？』と疑問に思う人がいると思いますが、モーツァルトは神聖ローマ帝国ザルツブルク、ベートーベンも神聖ローマ帝国ボン、ブラームスにおいては自由ハンザ都市ハンブルク生まれであり、つまりこれらの作曲家が生きていた時代は、まだ何処からがドイツ国で何処からがオーストリア国と明確に定まっていない状態(当時ザルツブルクは大司教領でした)、現在の国家のように統一されていない状態でした(そもそも現在のようないドイツ連邦共和国やオーストリア共和国はまだ存在していなかった)。難しい話は歴史学者に任せて。何が言いたいのかと申しますと、私は大ドイツ主義の観点から見ているのです。もしかして歴史のいたずらで第一次世界大戦後現在のドイツとオーストリアは大ドイツ主義のもと統一されていたかもしれません。それよりもっと前に統一されていたかもしれません。悪しき時代にはオーストリアはドイツに併合されました。

モーツァルトの言葉からは自らを『オーストリア人』とは言わず『ドイツ人』と言っています。だからモーツァルトはドイツ人なのです(これはドイツ人であって現在のドイツ国民と言っているわけではない)。

ドイツ語はハプスブルク家が台頭している時代、今の南ドイツのドイツ語が主流だったと聞いています。普墺戦争でプロイセンが勝った頃から、また時代は移り、現在のドイツ連邦共和国が欧州の盟主となると、ドイツ語は北ドイツのドイツ語が主流となっている。その時代の力関係で主流は変わって行くものだと思います。

今私はこのようなことを述べていますが、これらのことをツイッターなどに投稿すると直ぐに炎上すると思います。これらのことは私の持論であり、まったく見当はずれかもしれませんが、異論も沢山あると思いますが、間違った認識であってもこのことが私の『ドイツわが愛』なのであります。要するに、大ドイツ主義のもとドイツもオーストリアも私にとっては共にドイツなのです(オーストリアの

人ごめんなさい)。

おまけに、ハプスブルク家はスイス出身と言われていています。スイスもドイツに加えて良いかな？(笑)。

甲南大学と信州大学の学生来室

12月9日(土)の午前に甲南大学の藤原三枝子・野村両先生と信州大学の磯部美穂先生の引率で甲南大学と信州大学のドイツ語を専攻している学生さん22名が、神戸でのドイツゆかりの場所を課題を解きながら巡り歩くプログラム(Schnitzeljagd)で、神戸日独協会を訪問しました。六甲の山並みに雪がうっすらと見られる寒い日でしたが、協会会議室で茶菓をとりながら、枘田会長からの協会の歴史と活動、神戸でのドイツについての説明のあと、質疑応答をしました。

学生さんたちは、さらに風見鶏の館、元町の Curywurst の店、Freundlieb、トアロードの Delicatessen、Bäckerei Schrattenbach をグループに分かれて訪問するとのことでした。

実行委員として神戸日独協会の活動に参加しませんか

神戸日独協会の主要な年間の活動は総会及び理事会によって決定されますが、日頃の活動は実行委員及び会員によって行われています。実行委員は定款上の役職ではなく、会員のボランティアによるものです。毎月第3日曜日に実行委員会を開催し、会員の方々が希望するあるいは実行委員のアイデアによる催し物を企画し、準備し、実行しています。神戸日独協会は会員の皆様の積極的なご支援を必要としています。

次回の実行委員会は12月17日(日)15時より協会会議室にて開催しますので、奮ってご参加ください。

事務室からのお知らせ

年末・年始の協会事務室の閉室について

12月23日(土)から1月8日(月)まで事務室は閉室します。

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は1月10日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
12月16日(土) 14:00~	第169回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
12月17日(日) 15:00~	神戸日独協会 実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
1月13日(土) 18:00~	関西地区日独協会 合同新年会	アサヒスーパードライ 梅田	1月9日(火)まで
1月20日(土) 14:00~	第169回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
1月28日(日) 14:00~	ドイツワインの会第8回 「ラベルデザイン今と昔」	神戸日独協会 会議室	1月24日(木)まで